

# 災害実動機関における組織横断の情報共有・活用

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) スマート防災ネットワークの構築 サブ課題C

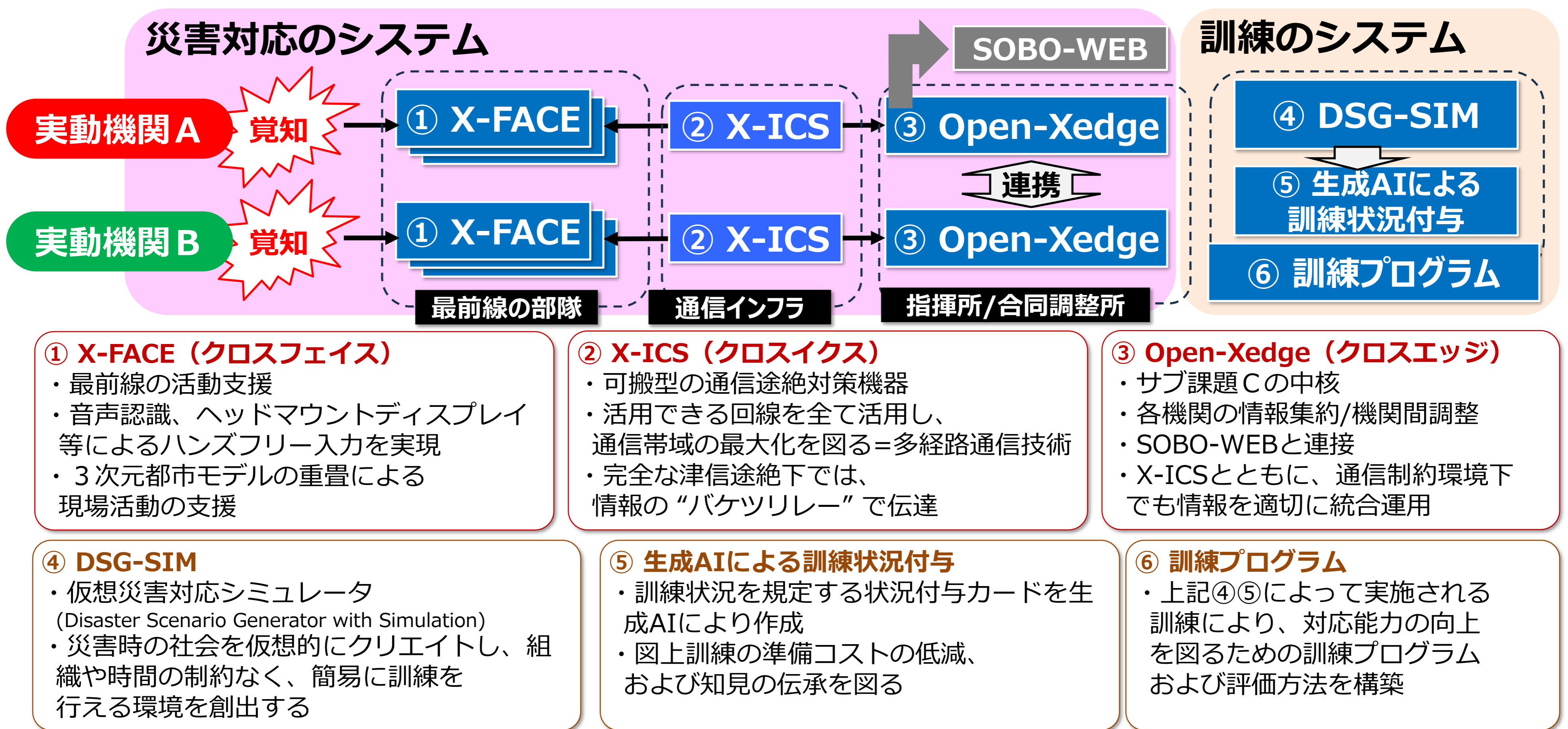
## Point

- これまでの情報共有は“災害対策本部への集約”が目的 もちろん大切
- しかし、被災者の生死を分けるのは、“**現場の情報共有**”
- 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) で“**現場DX**”に挑む！！

## 概要

これまでの情報共有の取組は、主に都道府県の災害対策本部をつなぎ、円滑な災害情報の“集約”を実現してきました。その一方で、消防や自衛隊など実動機関間のコミュニケーションは無線による口頭伝達や手書メモの交換などで行われています。

得意分野や保有機材が異なる実動機関（消防、警察、自衛隊など）が人命救助の最前線で、実動機関どうしが円滑に情報共有を行い、“**救える命を救う**”に貢献するための取組を進めています。



【実践】令和6年能登半島地震の初動対応



【検証】実動機関によるシステム検証      【訓練】自衛隊ヘリによる機器の搬送訓練

SIP 防災情報 なぜ
検索
YouTube

## SIP第3期の取組紹介

# 防災情報 なぜ情報は集まらない？

防災科研 研究統括 伊勢 正

KEEP OUT      KEEP OUT      KEEP OUT

現場のDXを目指します      災害は現場で起こってんだ！

